

自然エネルギー活用事例研修に小学生が日南町の様子を視察しました

平成27年8月11日、鳥取県地球温暖化防止活動推進センターによる、県内小学生を対象とした自然エネルギー活用事例研修ツアーが開催されました。小学生たちが引率の公立鳥取環境大学生と共に日南町各地の自然エネルギー活用の様子を見学していききました。



バスで日南町林業総合センターに到着後、町内にて木材加工工場を操業している株式会社オロチの方より、日南町について、日南町の林業について、日南町産の材木を使用して操業する事の意義についてスライドを用いて説明が行われ、熱心に耳を傾けていました。

その後、日南町の木材産業の要衝である日野川の森林木材団地へ移動。株式会社オロチ工場にて単板積層材(LVL)の製造過程と、工場内のバイオマスボイラー・発電設備を見学して、地元の森林資源を活用すると山が良くなること。木材加工工場では発電・加工段階で化石燃料を使わず地元の木材からエネルギーを得ている事などを学んでいました。



また、日南町石見東太陽光発電所等を見学し、中山間地の日南町において再生可能エネルギーによる「自給自足」を目指している姿に驚きの様子でした。

環境問題への意識が高まりつつある現在、日南町の森林資源の利活用は大きく注目されつつあります。これらを更に有効活用することで、魅力ある地域づくりをしていく事が出来ればと思っています。

「道の駅にちなん日野川の郷」環境配慮型カーボンオフセットを実施

平成28年4月、日南町霞地区に開業予定の「道の駅にちなん日野川の郷」(名称は公募により決定)では、販売する商品(農産物や加工品など)すべてについて、環境貢献型カーボン・オフセット商品とする計画が立てられ、オープンに向けての準備作業が進められています。環境貢献型カーボン・オフセット商品については、企業活動で排出される二酸化炭素(CO2)を、森林のCO2吸収量で相殺するものです。販売商品の価格に町内の森林整備にあてる寄付金分を上乗せする方式が取られることになっています。

実現すると、全国初のCO2排出ゼロの「道の駅」が誕生することになり、商業活動の活発化が森林整備を更に進めていくという、林業を取り組んだ地域経済の発展も期待されます。